



岸本 博明 (62期) ●Hiroaki Kishimoto

本コーナーでは、一般的な国内法律事務所を飛び出して働く弁護士に、勤務の実態等を紹介していただきます。

1 企業内弁護士となった経緯

2014年4月から三菱電機株式会社で勤務しています。所属は法務・コンプライアンス部ですので、いわゆる企業の法務部員の一人として日々の業務に従事しています。当社へ入社するまでの経緯としては、弁護士登録後2年間、都内の大規模事務所で勤務弁護士として渉外法務に携わった後、修習同期と開業した事務所で約2年半、中小企業や個人を依頼者とする一般民事事件を中心に取り扱ってきました。勤務弁護士時、独立時を通じて取扱業務はどれも面白く、弁護士になってよかったと感じていましたが、と同時にどうしてもかかわる人に偏りができてしまい（法務・総務部門やオーナー社長さんなど）、接する人や地域を広げて仕事をしてみたいという思いが次第に強くなってきました。こうした思いが叶えられる環境として、企業、特に製造業なら各地に工場もあるためいろいろな人がいて面白いのではないかと考え、製造業を中心に転職活動をしたところ、縁あって今の会社でお世話になることになりました。

2 業務内容

現在の業務内容としては、M&Aを始めとした組織再編行為に関する法務業務を中心に、各種契約書チェックや社内向け講習会の講師、コンプライアンスに関する業務などを行っています。当社は、冷蔵庫やエアコンといった家電製品からエレベーター、ひいては人工衛星まで製造する総合電機メーカーですので、取扱事業分野は広範囲に及んでいます。事業分野ごとに商流を始めとする取引形態や社員の属性が大きく異なるため、法務部門としても必然的に多様な取引に関与し、また営業職から技術者までいろいろな社員と日々接することになります。この点、企業への転職を希望した理由であるいろいろな人と仕事がしたいという思いは現在叶えられていると感じています。もっとも、入社当初は社内用語1つとっても意味が分からず、また事業内容についてもイメージしづらいものも多かったため、社内打合せで全くついていけなかったり、事業部門員とのコミュニケーションに苦勞することもありました。そうした中で試行錯誤するうち、間接部門である法務部門の人間よりも、事業部門の人間の方が当該事業の内容に

については、こういったトラブルが発生するかといった点を含めて当然よく分かっているのだから、自分が分からないことはどんどん聞けばいいじゃないか、と（半ば）開き直りまして、今では事業部門員から事業のことをいろいろ教わりながら、事業部門の悩みを掘り起こし、法的側面から解決支援を行うよう心がけています。結果、事業部門員とも少しずつ円滑なコミュニケーションが取れるようになると同時に、案件の実績も少しずつできてきて、日々の業務に対するやりがいや楽しさが高まっていると感じています。

自分のデスク以外での業務としては、相手方との交渉や支社等での講習会、工場見学などで、国内、海外を問わず出張することがあります。この点、法務部門は本社でデスクワークという先入観があったため、イメージと実際が大きく違っていました。工場見学をして、自社製品の製造や出荷の工程を見ますと、思った以上に自社製品と会社に対する愛着が湧いてきます。その他の業務としては、大学生のインターンシップやゼミでの企業訪問時の対応といった社会貢献的な活動にも従事しています。

現在の勤務時間は、午前9時から午後5時30分までです。案件の繁忙状況によっては残業や土日に出社することもあります。定時で上がることも多いです。法律事務所時代と比べると、平日夜や土日の予定を立てやすくなったと感じています。

3 法律事務所での執務との異同

私が当社の代理人となることはなく、弁護士が関与すべき事件については外部の法律事務所へ委任しますので、現在、弁護士資格が直接必要となる業務は行っていません。事件を依頼される側から依頼する側へと変わったため、入社当時はとまどいもありましたが、今は、弁護士を始めとする各種専門家の力を借りながら案件をまとめ上げ、成功へと導く

ことにやりがいを感じています。そうした中では、関係部門を説得し、会社として意思統一を図ってゆくことが非常に重要となりますが、説得のツールとなる文書の作成や打合せにおいては、事務所時代の各種書面の起案や依頼者との法律相談での経験が活きていると感じています。

4 弁護士会活動等

今も弁護士登録を維持しています。公益活動を始めとする弁護士会活動については、会社から理解をいただいております。もっとも、現在の業務実態に照らすと国選弁護事件の受任は難しいため、委員会（司法修習委員会）へ可能な限り出席するようにしています（先日も修習カリキュラムの1つである研修旅行に参加しました）。企業内弁護士は、どうしても法律事務所所属の先生方との接点が少なくなりがちですので、委員会を通じた先生方とのつながりは大事に感じています。また、日本組織内弁護士協会に加入し、研究会やセミナーへ参加することで、組織内弁護士としてのスキルアップや組織内弁護士同士のつながりを増やすよう努めています。

5 最後に

企業内弁護士となってもうすぐ2年が経とうとしています。この2年間を振り返ると、新しい環境下で目の前の仕事をこなしていくことに必死だったような気がしています。おかげで、社内での面識も広がり、仕事の仕方もある程度分かってきました。今後は、少し足元に余裕が出てきたこともあり、弁護士資格を持つ法務部門員であることの付加価値について自分自身で考えを整理し、日々の業務を通じて当該付加価値を意識的に会社に対して提供してゆきたいと思っています。 ■